

新型コロナウイルス感染疑い発生時の対応フロー（入所系）

● ポイント 感染が強く疑われる者／濃厚接触者／それ以外に分けて対応する

感染疑い事例がない場合

- ・各施設作成の感染対策マニュアル等に基づく取組の再徹底
(地域の状況を踏まえ、健康管理・マスク・手指消毒の徹底) ※即、濃厚接触者にならない為に
- ・施設長等・医師（担当医・主治医・配置医・産業医等）・内部の連絡・情報共有体制の確認
- ・施設における業務継続計画（BCP）の準備・作成

感染疑い事例が発生した場合

- ・施設長等・医師（担当医・主治医・配置医・産業医等）に報告・相談し対応
- ・施設内の短期入所も含め、入退所者の制限を検討

「新型コロナウイルス受診相談窓口」又は主治医から直接「新型コロナ外来」に電話連絡し指示を受ける

（保健所等設置：帰国者・接触者電話相談センター）

PCR 検査の実施

検査の対象範囲や事業の継続について保健所の指示を受ける

※検査結果が出るまで待機

検査結果（陰性の場合も）を
区市町村及び東京都に連絡

*1 感染者は入院

利用者・職員等に感染者（PCR陽性）発生

感染拡大防止対策の強化 *2

濃厚接触者 又は 接触が疑われる利用者・職員・家族を特定 *別紙
保健所等の指示により、対象利用者・職員・家族へのPCR検査を実施

（複数の陽性者）

*1 感染者は入院

クラスター（集団）発生

※施設サービスは継続

PCR陰性の職員

PCR陰性の利用者は施設内対応（要管理）

接触が疑われる職員
十分な配慮のもと、
業務継続は可能

濃厚接触者
2週間の自宅待機

*1 高齢者や基礎疾患を有する者等である場合には原則入院することとなるが、それ以外の者については症状等によっては自治体の判断に従うこととなる。

*2 ユニット型では自室隔離対応、開放型は間隔をあけ間仕切り対応、職員はできるだけ固定し交差感染防御、使い捨て容器使用、マスク・手袋着用、入室前後の手指消毒、飛沫感染等のリスクが高い場合、ゴーグル・使い捨てエプロン等着用、十分な換気

令和2年4月10日版 作成：東京都新型コロナウイルス感染症対策医療介護福祉サービス等連携連絡会（協力：全国老人保健施設協会）